



保育士養成校との意見交換会

- | | |
|------------------|----------------|
| 2.総会・保育所長研修会 | 14.新規採用予定職員研修会 |
| 3.第55回保育研究大会 | 16.研修報告 |
| 4.各分科会報告(1～8分科会) | 19.専門委員会報告 |
| 12.県保育研究大会に参加して | 20.支部だより |

写真提供: 静岡市 ゆりかご保育園

平成26年度

静岡県保育所連合会総会 並びに 保育所長研修会

開催

期日 平成二十六年四月二十四日
会場 静岡市民文化会館

平成二十六年年度静岡県保育所連合会総会は、静岡県健康福祉部福祉こども未来局・萩原綾子局長、静岡県社会福祉協議会・杉田勇三常務理事等、多くの来賓の皆様をお迎えして、静岡市民文化会館において開催されました。

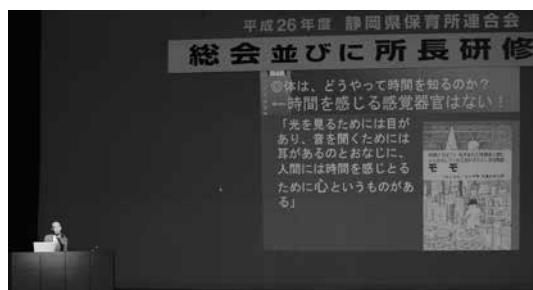


最初に後藤弘明会長の挨拶の中で「平成二十七年より実施される新システムについて、質の高い保育を保障するためにどうするか。さらには今後保育園のままでいくのか認定こども園にしていくのか迷われていると思うが、保護連としても情報をどんどん伝え、少しでもいい方向に行くようにしていきたい。合わせてふじさんっこ応援隊に象徴されるように子どもに優しく、親にも優しいシステムになるよう社会に働きかけていきたい」と力強く挨拶されました。その後、萩原局長、杉田常務からもお祝いのお言葉をいただきました。



報告・決算報告、第二号議案…新システム対応に必要な会則の一部改正、第三号議案…指名理事の承認、第四号議案…平成二十六年事業計画・予算案の議案が審議され、承認されました。

総会終了後、引き続き保育所長研修会が開催されました。講師には歌える講師、東京工業大学教授、本川達雄先生をお招きし、



次に総会に移り、議長に藤枝聖マリア保育園・小林潔園長、浜松市立鴨江保育園・中山郁子園長を選出し、議事に入りました。

た。先生は、生物の時間とはどういうものか、というところから考えて、子どもを大切にす

生物学的にいえば、生物というのはずっと生き残っていききたいものだが無理なので子どもを作る、つまり子どもは私自身であり、私を渡していくものだから、私を大事にしようと思ったら子どもを大事にしなければならぬ、これは生物として当然のことである。にもかかわらず、今の世の中は子どもを大切にしていない。なぜなら時間の見方が違うからである。そもそも時間とはみんな同じではないかという思いが普通であるが、生物学的には「時間は体重の一／四に比例する」ということから体が大きいほど時間はゆっくりになり、子どもの時間はネズミ的、大人の時間はゾウ的であることを意識して、子どもを理解していかなければならない、ということでした。

最後には子どもに對する思いにあふれた歌を歌っていただき、感銘深い講演でした。



第五五回

静岡県保育研究大会

平成二十六年五月二十二日(水) 静岡市



昨年度同様今年度も静岡県保育研究大会は静岡市民文化会館と静岡県総合社会福祉会館で大会役員を含め六一八名の参加者により盛大に開催されました。

内閣府主導による子ども子育て支援新制度は、平成二十七年四月一日より施行されることが正式に決定し、保育行政の具体的な動きが本格化していきます。そのような中にある保育所は全国的に増えている待機児童を解



消すべく定員増や分園の設置をはかり、日々の保育の中では、子どもの最善の利益を保障することを心がけ、保育の質の向上にも取り組んでおります。

今大会も「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」という主題のもと、県保育所連合会、県保育士会から選出された代表が八つの分科会で研究発表を行いました。参加者は熱心に聞き入り、その後は質疑や活発な議論、意見交換を行い実りある大会となりました。

保育研究大会が滞りなく、また盛会裏に終了できましたことは、運営に携わって頂いたすべての関係者の方々のおかげであることと深く感謝申し上げます。

第一分科会

テーマ「新たな時代の保育実践」

「すべての子どもにむけて」

「子育てと子育て家庭を支える」

保育所となるために

発表者

①富士宮市立大宮保育園

保育士 深澤 真美

保育士 伊藤 彰紀

②静岡市 第二双葉保育園

保育士 瀧 智子

保育士 石ヶ谷留里

③浜松市 ルミナプレスクール

主任保育士 松井 尚美

議長

焼津市立旭町保育園

園長 松永恵里子

助言者

静岡県立大学短期大学部

教授 漁田 俊子

記録

焼津市立石津保育園

園長 伊藤 喜美



発表(一) 絵本で子育て親育て

「未来に繋げよう!!絵本の力」

昔から愛されている「絵本」を活用した子育ての良さを理解してもらい、さらに今子どもたちに不足しているコミュニケーション能力の向上を目指し実践活動を行った。

子ども、保護者、職員のそれぞれの実践をとおして、絵本には「保育園と家庭を繋げる力」があることを実感した。絵本は、子どもの生きる力となる知識・想像力・言葉の獲得・疑似体験・思いの共有・コミュニケーション力・楽しい経験等様々な力を学ぶことができる。今後も絵本の力を信じ、未来に繋げる子育てと子育て家庭を支え共に笑い語り合いながら保育を続けていきたい。

発表(二) 保育園と保護者の

コミュニケーションの充実に向けて

「子どもの様子の伝え方」

保育園での保護者と保育士との関係性を振り返り、子育てと子育て家庭を支える保育園となるため、子どもの育ちや気付きを丁寧な家庭へ発信し、家庭との連携をより深めて行くため、保護者向けのアンケートを実施した。アンケート結果から、園内で使用している保育士が情報を共有するための連絡メモ用紙の再検討を行った。また、子どもの当日の様子や友達関係など具体的に知らせて欲しいという意見が多いことを受け、常に保護者への伝達は、誠実・真剣に、接することがコミュニケーションの充実に繋がると実感した。

発表(三) あそびだいすき

「感性豊かにおおきなあれ」

「互感を育む保育を考える」

「子ども達の感動する心を育むには」五感を研ぎ澄ませた経験が、感性を磨くのではないかと考え、保育活動に五感を育む内容を意識して取り入れた。

実践の中で、確かになったことは、子どもは思いや意欲を保育士に受けとめられ、理解されることで表現する喜びや自己肯定感を味わい、意欲となつて遊びにつながる。また、感動を共感し伝え合うことで、子どもの人とながる喜びや、成長した姿を見ることができた。保育士は「子どもがきっかけをまつてるとき、優しく言葉をかけさりげなく手を差し出す」これからも子どもの世界を広げることができよう努めていきたい。

助言者より

「絵本」を活用することでそれぞれの愛着が育ち心をかよわせることができる。また、保護者の思いを受け保育に反映させる「アンケート」、家庭で親子の会話がが増えていくような園内の「環境設定やおたより」等それぞれの研究実践の成果が感じられた。子どもは三歳で神経細胞が構築され三歳過ぎると「自分の力」が育ってくる。子どもの持つ力を信じ自然な形を生かしていく必要がある。また、保育にP・D・C・Aサイクルを活用し

第二分科会

テーマ「配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて」

―気になる子どもの保育と家庭支援―

発表者 ①沼津市 原町保育園

副園長 鶴谷由美子

主任保育士 大輪和香子

②島田市 こばと保育園

主任保育士 森下かおる

③浜松市 笠井保育園

主任保育士 渋谷 真弓

浜松市 花川保育園

主任保育士 深田かおり

議長 菊川市 ひがし保育園

園長 森 富美江

助言者 静岡県発達障害者支援センター

発達障害者支援班長 穂山 佳子

記録者 菊川市 ひがし保育園

園長代理 浅井 明代

発表(一)

「なかよく・じぶんらしく・たくましく」

乳児から成長していくにつれて障害がわかったり、はじめから障害があるとわかって受け入れる場合もある。受け入れた子どもも、クラスメイトの子どもも、一緒に育っていく保育環境・保育方法を模索。療育的なアプローチは適宜行いが、基本は「なかよく・じぶんらしく・たくましく」の園目標を軸に、仲間と共に成長発達を促すことを実践した。

障害があろうとなかろうとクラスメイトと、一緒に過ごす体験がお互いにとって望ましい。しかし、それは行政側のバックアップなしでは成り立たない。

発表(二) 「気になる子どもの保育と家庭支援」

配慮を必要とする子どもは、どのクラスにもいる。子どもの行動面の「できる」「できない」だけにとらわれず、子どもの心に寄り添い、子どもの動きを知り、子どもが自発的に活動できるような保育をするには……一人一人の子どもの育ちを園全体が共通理解することが必要。①エピソード記述を継続して行い話し合いをすること、②インシデントプロセス法によるケース検討を行うことで、子どもの育ちの見えないところが見えてきた。

子どもの見方や思いを保護者と共有していきながら、より良いつながりの中で子どもたちの成長を支えていける保育を目指していく。

発表(三) 「基幹的職員研修に学ぶ

気になる子どもの保育と親支援」

浜松市の取り組み……発達障がいのある子ども及びその保護者への対応、専門機関との連携や他の職員への助言や指導ができる基幹的役割を果たす保育士を育成する為の研修を開始。

研修での学びや施設見学を通して、環境や関わり方を見つめ直すことで、子どもの行動の見方や保育の支援、クラス運営の仕方など少しずつ分かるようになり、実践してきた。

どの子にとってもわかりやすい保育・環境を目指しながら、園全体の全ての子どもより良い未来を築いていけるような支援をしたい。

助言者より

どの発表も丁寧な取り組みがされ、感心した。

子どもや周囲をよく観察した上で、子どもの見立てに基づく対応がされていたと思う。保護者との連携や園内職員間の情報共有、研修方法等も工夫されていた。

配慮を必要とする子どもや家庭が支援機関とつながっていくスタートになる乳幼児期。保護者の困り感を拾って関連機関につなげていくには、日常の会話の積み重ね等で信頼関係を築くことが大事。

保育者は一人で抱えず、まず園内の職員がよく連携し、困ったことは関係機関につなげていく。乳幼児期に解決できない課題は小学校へとつなぐ。そのつながりが重要となる。



第三分科会

テーマ「保育者の資質向上を図る」

―職場内研修の充実による―

職員の資質向上―

発表者

①富士宮市 東保育園

主任保育士 佐藤美千代

②静岡市 私立保育園連合会 研修委員

あけぼの保育園 園長 古川智恵子

清水みらい保育園 園長 木村緯歩子

③磐田市

このとり保育園 主任 堀川 圭子

浜松市

ひかりのこ保育園 園長 平野 春江

磐田市

このとり豊田保育園 園長 鈴木 勝子

議長 御殿場市 双葉保育園

園長 勝又 秀文

助言者 常葉大学

准教授 山本 睦

記録者 沼津市 いずみ保育園

副園長 十八公淨滋

発表(一) 保育者の資質向上を図る

―絵本の読み聞かせの実践からみえた

保育士の資質向上について―

今、子ども達は、映像や音等の情報社会からの発信に対して受け身になって生活している。そこで子どもに安心感を与えるために絵本を自主的に好む環境設定をポイントに、読

み聞かせを通して心の安定、情緒に繋げていきたいと考え、読み聞かせに一年間の目的を持って年齢別に工夫をしながら実践し、観察、記録をつけ、それに対し職員間で話し合い、報告し、共通理解を得た。それにより絵本や物語がとても大事であり、子どもへの影響についても職員間で深く理解でき、資質向上を図ることができた。

発表(二) 保育者の資質向上を図る

―職場内研修の充実による

職員の資質向上―

静岡市保育園連合会「研修委員会」は保育園職員の資質向上につなげる園内研修のあり方を研修している。その中で音楽・運動というテーマを違う方法で行っている二つの園内研修に焦点をあて、比較検証し両方の問題点を出し合い、改善策を模索してみることにした。一園はわらべうたを用い自主的にまた、講師を招いて指導を受けた。もう一園は音楽・運動遊びを用いて各自が勉強してきたことを情報として出し合いながら、実践していった。この二園の各問題点を互いに出し合いながらより資質の高いことを得ることができた。その根底には子ども達を広い面で確実に育て、健やかな成長を保証する場にしていかななくてはいけないことがある。

発表(三) 初任者の人材育成

―主任会主催の初任者研修―

法人には保育園、病院、介護施設があり、

研修は、他の施設職員と合同で行うため、保育分野の知識や技術を深めるためには至らないでいた。そこで人材育成の問題が急務になり、初任者研修を主任達が計画することを決めた。初任者は現場の求める初任者へ、主任は計画することで指導者としてのスキルアップ、中堅保育士は指導や助言を行うことで頼れる先輩役に就く。相互の関係が役を担う中で、自分たちの保育を振り返る機会になり、実践力アップにつながったと考えられる。

助言者より

一つの領域について体系的に取り組んでいくという実践で、そのための研修です。正にアウトソーシングの対極にあるもので、園の中で先生方が、その年齢にあったものを作っていくという、それをリードできる資質を養っていくというものでした。こういう活動を是非多くの園で取り組んでいくことが大事だと思います。保育者の資質向上について考える



ときに、キャリアというのを先生方自身が考えて、キャリア形成に寄与するような研修にすることについて考える事が大事だと思います。今回の研究発表を聞いて、この分科会の質がだいたい高くなってきたことを思いました。

第四分科会

テーマ「地域の子育て家庭への

支援の充実にむけて」

―保育所利用家庭、地域の子育て

家庭に向けて―

発表者 ①沼津市立金岡保育所

主任保育士 金崎万里子

指導保育士 藤池 恵弓

②静岡市

美和保育園 保育士 中野小夕美

保育士 藤波 晶子

保育士 赤堀 彩子

③掛川市

大坂保育園 保育士 相澤 直美

保育士 加藤 広美

保育士 永田恵美子

議長

磐田市立豊田西保育園

園長 加藤 広美

助言者 静岡英和学院大学

准教授 永田恵美子

記録者 磐田市立福田保育園

園長 斉藤喜代美



発表(一) 子どもの成長を共に認め合い、

育児を楽しむために

保護者が保育園に求めていることは、我が子の保育園での様子を知りたい、安心して子どもを預けることができる場であってほしいことと考え、園内研修会で保護者支援の意義について学んだり、具体的な実践法を考えた。面接法やコミュニケーションの取り方を学ぶことで保護者との信頼関係を築くことができた。また、園行事や日常の遊びについて、ねらいや発達へのアプローチを伝えていくことで、子どもの成長を共に喜び子育てへの意欲に繋げることができた。

発表(二) 乳児保育の充実と地域支援

保育力の低下や育児不安が子育ての問題点として取り上げられている現在、保育所の保護者への育児支援の役割は大きい。そこで、保育士が資質向上に努め専門家として適切にアドバイスができるよう乳児保育の見直しにアドバイスができるよう乳児保育の見直しに取り組んだ。保育環境の見直し、担当制の実施、日課や育児マニュアルの作成や、地域の子育て家庭への支援として、おしゃべりサロンの充実等の実践を行った。保育が変わることと子どもが落ち着き、保護者ともより良い関係を築くことができた。

発表(三) 絵本を通して心を育てる

「スキンシップは大事だね」

近年、保護者からは子どもとの遊び方が分からないという声が聞かれるようになった。そこで、「絵本の読み聞かせ」と「親子で楽しめるふれあい遊び」「わらべうた」の三つに取り組むことにした。また、地域の子育て家庭への支援として園行事への参加や園庭開放の機会もつくった。これらの実践を通して親子のつながりや子ども同士との交流が深まり、相手を思いやる心や物事への意欲の高まりなどの変化が表れた。

助言者より

保育園の中の保育をいかに保護者に発信できるか、保育園と保護者の関係を見える化することが大切である。絵本、わらべうたがどうして子どもにとって良いのかを、保護者へきちんと知らせると良い。保育園から学んだ保護者の支援方法として、毎日明るい声で挨拶する保育者は保護者にとって最高の心の支えになる。また、早番から担任、遅番まで個々の親子の情報を把握していることは、親子にとって見守っていてくれるという安心感と同時に、すべての職員が見張っているという緊張感にもなる。保育園にしかできないこと、それがとても大切な保護者支援である。

第五分科会

テーマ「家庭や地域との連携による食育の推進」

—子供の食事と栄養—

食育を考える—

発表者

①長泉町

あそか保育園

②川根本町

調理師 平柳 昭子

③磐田市

三ツ星保育園

統括保育士 芹澤 静恵

主任保育士 大石利絵子

④富田

二之宮保育園

保育士 鈴木 咲喜

議長

裾野市

富岳南保育園

園長

杉山 延江

助言者

日本大学短期大学部

教授 吉田 隆子

記録者

裾野市

富岳南保育園

園長補佐 橋本 正美



発表(一) 家庭や地域との連携による食育推進

～興味を持ち、経験から食を学ぶ保育～

「食べる」とはなにか？運動・排泄・睡眠を考えたとき、支え生きる為に命を頂くということである。子どもにとっては成長を促す大切なこと。食育を通して子どもの興味に働きかけ、自らが食することを楽しみにし食べたいと思う心と保育計画と組み合わせ実践。実践内容の具体的な活動により保育現場の共通意識をはかる。食の環境は変化していくが実践することによって意識をもち、家庭の声にも耳を傾け、経験や学びを通して家庭との信頼関係を結び、地域との協働した食育活動に取り組んでいきたい。

発表(二) 家庭や地域との連携による食育推進

～五感を働かせて、食べる喜びを広げよう!!～

平成二十二年度からの研究で、食を通しておいしく食べる心の取り組みを研究していったが、日常的に取り組んでいる食育活動に反応が薄くなっている姿がみられ、食に興味を持たせる工夫をし、家庭や地域の方の力を借りておいしく食べるには、五感を育てることも大切になることに目を向け食育活動を実践。活動では郷土料理を伝える、親子クッキング、お茶つき、梅作り、畑作り、アンケート等を取り入れる。家庭と地域と園で子ども

達に出来ることを考えながら、今後も食育活動を進めていきたい。

発表(三) あさごはんをたべたい

～食べて、遊んで、うちにして～

食育部会での話し合いで朝食調べ、排便状況の調査をすることで保護者や子どもの意識が変わるのではないかとということで、生活習慣を身につけることを目的に研究。二、四才児を対象に朝食調べ、うち調べ、アンケートを行い悩みに対しては時短メニューのレシピ、食育ニュースの配布を行う。その結果、実態を知り朝食や排便に興味を持ち、意識が高まり見直すきっかけにもなった。今回ある程度の成果は得られたが、まだまだ朝食や排便の大切さを伝えていく。

助言者より

食育を進めるにあたって各市の食育推進計画を土台に進めているか、今回の発表にもあったように実践がキーワードになる。その中からユニークな取り組みについての事例を参考に、自分が興味をもって日々面白いことを探し出すことが大切。すべての発表が楽しいもので、実践を通しての発表だった。これからもこのような食育を続けていただきたい。

第六分科会

テーマ 「子どものより良い育ちにむけた

関係機関とのネットワーク

～多様な機関との連携と協働～

発表者 ①清水町立南保育所

所長 平川八千代

②静岡市私立保育園連合会

保育内容委員会

千代田保育園

園長 望月いづみ

小百合キンダーホーム

園長 斉藤 裕子

③浜松市浜北区 天竜厚生会

しんぱら保育園

保育士 伊藤 智枝

議長 静岡市立用宗保育園

園長 望月ふみ子

助言者 常葉大学・浜松大学

准教授 田中 浩之

記録者 静岡市立高松保育園

園長 斉藤 明子

発表(一) 子どものより良い育ちにむけた

関係機関とのネットワーク

～多様な機関との連携と協働～

保育所が求められている機能や役割は、地域の子育て支援を積極的に担うことが重要と考え、散歩に出たり、栄養士やお年寄りとの

交流を図り保育している。地域の人々とふれあうことで得た物がこれからの保育にプラスになり、地域に根ざした保育所のあるべき方向に向かえると確信している。関連機関との連携には課題も多いが、創意工夫しながらより開かれた保育所を目指して、育児が楽しめる地域作りに貢献していきたい。

発表(二) 子どものより良い育ちにむけた

関係機関とのネットワーク

～地域社会と手を携えた

保育園であるために～

子どもは地域全体が関わることで育ち、地域もその子どもを必要としているのではないかと考えた。お年寄りとの交流や自治会とのつながりなどを通して、思いやりやいたわりの心が育ち、お年寄りも子ども達のパワーで活性化が図られた。子育て支援センターなども関係機関の協力によって成り立ち、各園とも関係機関や近隣親子とのつながりがもてる大切な機会となっている。今後も地域のニーズに合わせ子どものより良い育ちに向けて地域と連携した取り組みを行っていきたい。

発表(三) 子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク

～多様な機関との連携と協働～

少子高齢化・核家族化が進み人間関係が希薄になってきているため、子どもも保護者も

支援が必要となっている。子ども達の幸せと育ちを支え、保護者が子育てを喜びと感じられる支援を考え、各機関とのつながりを大切にし、連携を図っている。これらの専門機関と連携できていることの意味は大きく、重要で高度な専門性を求められる。このことから保育園の特性を活かした支援を多くの専門機関と連携し進めていきたい。

助言者より

保育士があたり前とされていることが実は研究論文の材料になるすごいこと。研究をすることで、保育士・保育園全体の質の向上に繋がり、連携をすることで点から面になっていく。保育園は地域の中にある。まずは、自分自身を固め徐々に拡大し、地域の中の頼れる存在になっていくことが大切。時代は変化していて保護者のニーズも変化している。地域の連携を通して自分も変わり、変えていく事もしつかり捉えていくことが大切である。



第七分科会

テーマ「保育の社会化に向けて」

―保育の営みを―

いかに社会に発信するか

発表者

①函南町 ひまわり保育園

園長 渡邊 栄子

②島田市 第三保育園

園長 鈴木 規子

③掛川市 よこすか保育園

園長 秋定 淳子

議長

浜松市 蒲保育園

園長 延本 寿

助言者

常葉大学短期大学部 教授 鈴木久美子

記録者

浜松市 蒲保育園 事務員 村橋 葉子



発表(一) 保育の社会化に向けて

「保育の営みをいかに社会に発信するか」

「地域に根ざし、地域から愛される保育園」をスローガンに掲げ、毎日の散歩を基本とした保育を行っている。散歩中の挨拶や声掛けを通じて、地域との繋がりができるようになった。園庭拡張に伴い、地域住民と連携した交流行事を考えており、園庭の芝生化とその管理を共同で行うことや、年中行事の夕涼み会に地域住民が参加しやすいよう工夫する等、今後も継続して地域住民との交流に取り組んでいきたい。地域との繋がりを深めることにより、保育の営み・必要性・大切さを社会に発信し共有することになると考えている。

発表(二) 保育の社会化に向けて

「保育の営みをいかに発信するか」

島田市には公立保育園が三園あり、それぞれが地域に根ざした保育を目指し、子育て世代のニーズに応えていける活動を進めていきたいと考えている。季節に応じた地域の伝統行事への参加や高齢者との交流など、地域の力を借りながら一緒に成長していく「地域に根ざした保育の実践」を行うとともに、外国人ママの会・アラフォーママミーの会など、母親の一步を踏み出すきっかけとなるような「子育て支援」にも力を入れている。今後はインターネット等を活用した情報発信を行い、幅広い子育て世代の悩みやニーズに耳を

傾けていきたいと考えている。

発表(三) 保育の社会化に向けて

「保育の営みをいかに社会に発信するか」

中高生の実習の受入れや祝祭日保育の実施等、社会福祉法人の保育園としての地域のニーズに対応し実践している。また保護者との「朝のハイタッチ運動」等、保護者との繋がりを大事に考え、信頼関係を築くよう努めている。社会において社会福祉法人の透明性が求められている今、保育園での活動を地域の方に知ってもらう事が必要だと考え、地域の方や保護者への声掛けは継続し、町内への回覧や園外に向けた掲示板も今後活用していきたい。

助言者より

地域の特色を活かしたそれぞれの取り組みが発表された。発表一では移転経験を踏まえ、地域との関わりを築くプロセスが報告された。発表二は公立としてきめ細やかな子育て支援の実践の報告であった。発表三では社会福祉法人としての地域への責任をいかに果たすかが具体的な実践をもとに報告された。子育てを「私的」なものに留めず、いかに「社会化」していくのが問われるいま、保育所の専門性をより強化したうえで、その機能の有用性をいかに地域に発信し、地域を巻き込んでいくことができるかが一層の課題であることが認識された。

第八分科会

テーマ「公立保育所の使命と

地域社会での役割」

―今後の公立保育園の

役割と実践を考える―

発表者 ①伊豆市 修善寺東保育園

園長 大木 妙子

②静岡市 瀬名川保育園

園長 望月 直子

③浜松市 佐鳴台保育園

園長 鈴木 順子

議長 熱海市 和田木保育園

園長 小泉 明美

助言者 東海大学短期大学部

准教授 杉山 静子

記録者 熱海市 小嵐保育園

園長 中村 清子

発表(一) 公立保育所の使命と

地域社会での役割

―今後の公立保育所の

役割と実践を考える―

伊豆市は、公立園の統合や民営化が進められている一方、支援を要する子どもも増加している。このような状況の中で、アンケートによる実態把握を行うと共に、行政とのつながりを生かして、五歳児健診の実施、地域一体になった交流活動（人との関わり）を積極

的に行っている。少子化は課題だが「子供は地域の宝」を合言葉に地域に根ざした子育ての大切さを情報発信している。

発表(二) 公立保育所の使命と

地域社会での役割

―子どもを真ん中に、地域の人々と

手を携えて豊かな支援を―

公立保育園中央ブロック四ヶ園では①保育園の専門性を生かしたきめ細やかな悩み相談②障害児保育の受け入れと専門機関との連携③高校生とのふれあい交流④近隣ボランティアの方との囲みあそび、など「子どもを真ん中」に、地域の人々と保育園が手を携えお互いに影響し合って豊かな関係を築いている。またこれまで培ってきた経験を生かし「幼保連携型認定こども園」づくりに取り組んでいきたい。

発表(三) 公立保育所の使命と

地域社会での役割

―必要とされる子育て支援の拠点としての

公立保育所(園)の在り方について―

保育士一人ひとりが意識改革をする。さすが公立保育園といわれるような保育園のPRをし、専門機関とのつながりを作り地域の子育て支援をリードしていく。公立保育園とし

ての機能を生かし、市全体の保育のレベルアップと地域に開かれた保育園づくりに努めた。また児童福祉施設としての保育園を大切に「あたりまえの保育」をしていく。

助言者より

このテーマを実践研究として捉えるには何が課題か、どこを知りたいかを明確にする事が出来たことばかりでなく、出来なかった事をどうしたらよいか考察していく事が大切である。待機児対策としての小規模保育所など増えていくことが予想される。三歳未満児のニーズが高くその最善の利益を守るためにも、中身を公立が地域の核となつて支えていく役割を果たせるように行政も含めてネットワークの仕組み作り等今後の研究として必要になっていくのではないか。



県保育研究大会に参加して

第一分科会

「新たな時代の保育」という大きなテーマでした。二ヶ園では、コミュニケーション能力の向上について違う視点から取り組んでいた。一ヶ園は、絵本を使って親子共に絵本が身近になり、親育てにも繋がり親子関係が良くなった報告でした。他園では、こどもの様子の伝え方について、保護者からのアンケートを基に再検討し、保育士間の連絡ミス対策は自園でもすぐに実践したいと思った。一ヶ園は、職員のアンケートから、五感を育てるテーマを保育活動に取り入れ実践し、成長に合わせた保育内容の展開をボードフォリオにして保護者に対して見える保育にしていた。園との信頼関係を深める良い実践だと思った。助言者の「PDCAサイクル」の話と各園の発表から、全職員で実践したチーム力が、保育士一人ひとりの質を高めるのだと改めて考えさせられ是非生かして行きたい。

館山寺保育園 山本千春

第二分科会

各園の取り組みの発表を聞かせて頂きました

た。近年の保育現場ではどのクラスにも配慮を必要とする子どもが珍しいことではなくなっており、保育の困難を感じるが多くなってきたいます。また、保護者への心に寄り添いながら家庭への支援も必要です。今回の研修にもありましたが、アセスメントの活用、園全体での共通理解、専門機関と連携をしていくことが大切であり、一人ひとりに対してより細やかな保育をすすめていく等、日々の中で様々な工夫をしなければなりません。その中で、議長や助言者である園長先生方がおっしゃられていましたが、保育士の仲間が大勢いるという心強い気持ちを持ちながら気負うことなく日々の保育を行ってきたいです。

富岳南保育園 出田美徳

第三分科会

保育者の資質向上を図るというテーマでそれぞれ特色のある取り組みの発表を伺うことが出来ました。

実践を通じた取り組みは、内容・取り組み職員の姿勢などそれぞれの園で工夫されていることがよくわかり参考になりました。

第四分科会

初任者の人材育成については、主任保育士が主になり実践されており、初任者の育成にとどまらず、そこに関わる主任保育士・中堅保育士の役割の重要性も明確に示され、全体の資質向上につながっていることがわかりました。

必要なニーズを教わる場が提供されていないという助言者の先生の言葉が耳に残っています。研修の機会を提供する側として、職員との合意形成の必要があることもわかりました。今後の研修計画作成に参考にしていきたいと思っています。

聖心保育園 吉川慶子

地域子育て支援における保育所の役割が大きくなっている現在、よりよい保護者支援を提供するには、保育士が専門家としての資質を向上させ、適切なアドバイスができる保育の確立が最も重要である、というお話がありました。各保育所において、「保護者が求める支援とは何か」を考え、保護者が安心して子どもを預けられる保育所を目指して、様々な角度から保育の見直しを行っていった実践は、とても参考になりました。又、日常の保育や子ども達の姿、成長をわかりやすく伝えていくことは、保護者の安心感へと繋がって

いくことがわかりました。保護者が、子育ての喜びを感じられるよう、発信方法を工夫し、実践に取り入れていきたいと思っています。

清水原保育園 青木みどり

第五分科会

子どもの意思を尊重した楽しい食事、豊かな自然環境を生かした食育、アンケート調査や媒体を使用した保護者への投げ掛け等、どの研究報告からも熱心な食育への取り組みが伝わってきて大変参考になりました。

園での食育が家庭へ、地域へと繋がるように工夫をしたり、地域や保護者の方から知識を頂いて食育を行ったりすることで、連携の取れた環境が生まれると思います。そして、その環境で幼児期の子どもたちを温かく包み込み、成長後も心に深く残る様な食体験が出来るより良いのではないかと感じました。日常の何気ない場面から「食」に触れることを意識し、今回得たものを今後の食育に是非生かしていきたいと思います。

天使園子ども家 神谷那奈

第六分科会

テーマの中にある「関係機関」とは専門機

関だけだと捉えていましたが、各発表者の話を聴く中で地域のネットワークも重要な機関の一つであるという事を感じました。助言者から、地域を知ること・連携と協働は地域作り、それは共に育ち合う関係作りであるという話がありました。今回の発表はその関係性の大きさを強く感じるものでした。富士宮市公立保育園でも各園様々な形で地域との交流を深めています。少子高齢化・核家族化が進む中、子ども達のより良い育ちに向け医療や療育等の専門機関はもちろんのこと、子どもや保護者を地域につなげていくために保育園が担っていく役割は大きいものであるということを感じました。

富士宮市立大岩明倫保育園 伊藤由香

第七分科会

それぞれ特色ある熱心な取組み、とても参考になりました。養護と教育を一体的に展開・実践してきた私たちは、国の最重要課題である少子化社会の背景やその内容を的確に把握する必要があります。また、子育て・子どもへの関心が希薄化するなか、保育所の社会的責任が問われております。

私たちの未来を創造していくのは、まさに子ども達です。今、私たちは、長いあいだ培ってきた保育の重要性や活動を広く発信し、

保育所が拠点となって、社会全体で子育てをする文化を推進していかなければならないと強く感じました。

高根学園保育所 土屋恵子

第八分科会

公立保育園が地域にとって大きな使命を担っていることを改めて実感しました。各園が出来ることを工夫し、発信し、関わり、地域の中で子育ての中心となって努力されている取り組みは大変参考になりました。

地域によって求められるもの、関係機関とのつながり方等は様々だと思いますが、子どもを取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、また保育制度改革の方向性が示される中で、子どもにとって何が大切か、自分たちの園では何ができるのか、足元をじっくり見つめ地域の子どもを育てるといふ強い思いのもと、邁進していかなければならないと思いました。ありがとうございました。

菅山保育園 榎本知枝子



新規採用予定職員研修会

東部支部

月 日 平成二十六年二月二十五日～二十六日
会 場 三島市立箱根の里
参加者 五九名

東部支部の新規採用職員研修会は、平成二十六年二月二十五日、二十六日で、三島市立箱根の里で実施されました。

今回は、例年にない大雪が前日まで降り、三島市立箱根の里には、まだ多くの雪が残っていました。バスも途中までしか入られない状況でしたが、箱根の里スタッフの皆様のご尽力により、無事、新採研を実施することができました。

雪のため、野外活動のポイントラリーは中止となり、室内で活動をしました。皆で協力し体を使って種目をこなしていくうちに、研修生のコミュニケーションも深まっていたように感じました。

一日目の講義は、アップハート代表、勝又ひで子先生の「社会人として一番大事なこと」(人間関係と服務待遇)。研修生も真剣に聞いていました。

夜は、実行委員会によるAKBのダンスがあり、盛り上がりしました。その後は、室内オリンピックで、みんな楽しく一生懸命にやっていました。

二日目の講義は、小田原女子短期大学学長、小沼肇先生の「新人保育者の責任とプライド」(責任重大! かわいい子どもたちの人生が)。保育士として命を預かる大切さを教えてもらいました。

次の講義は、富士市緑ヶ丘保育園園長、内藤栄一先生の「保育園にとって一番大切なこと」(保育所の使命と役割)。

最後の講

義は、清水町しいのき保育園園長、名倉喜美江先生の「あなたにとって一番大切なこと」(保育者の役割と使命)。実体験を元に、時には涙を浮かべながら話す先生の姿に、研修生も真剣になって聞いていました。

最後に、講師の先生方、実行委員の皆さん、



手伝いに来てくれた皆さんのおかげで、問題なく新採研ができましたことを感謝申し上げます。

中郷西保育園副園長 瀬川尊也

中部支部

月 日 平成二十六年二月二十五日～二十六日
会 場 焼津青少年の家
参加者 九四名

毎年、寒さが一年で一番厳しいと感じるこの時期。四月からの保育園での毎日に期待と不安いっぱいの新規採用予定の保育士、栄養士を目指す若者たちが焼津青少年の家にバスで到着しました。焼津駅で、バスに乗るところからすでに研修が始まっています。研修所所員さんとの挨拶、オリエンテーションを経て一日目研修のスタート。

講義一は、神野博行中部支部長の「保育所の使命と役割」自分たちの所属するところの使命について確認がなされました。

講義二は、下原直美県保育士会長の「保育者としての役割」では、実際に保育園の様子をDVDで見ながら、保育士としての経験も、多い先生ならではのアドバイスや、危機管理、個人情報などについては毅然とした口調で話され背筋がぴんとした様子でした。午後は、土方良子先生に「私が目指す保育士を明確にする」というテーマで講義を受けた。聞いて

いるだけではなく、初めてであった研修生同士、簡潔に自己紹介、与えられたテーマで話し合うなど、自ら考え気づいていく時間が与えられました。その後は、班別交流会で班別の役割など話し合われました。夕食は、バイキング形式でおかわりもあり、みんなのお腹も心も満たされました。現場からのアドバイスでは、班別に生活指導を担当された先生方が、グループの話し合いに参加し、アドバイスや質問に答えはつとする研修生の姿がありました。

二日目、藤枝聖マリア保育園の小林潔園長指導のもと、班別対抗での運動遊びが盛り上がりまし
た。また、
焼津明星保育園の櫻井
英世先生の
手遊び・歌
遊びはどれ
も明日から
実践できる
もので、現
場への良い
お土産とな
りました。
昼食をはさ
んで、静岡
読み聞かせ
の会の小泉
亮子先生に



よる「子どもと絵本」が最後の講義でした。先生ご自身のたくさん蔵書をお持ちいただき、絵本の選び方、読み方、楽しみ方など教えていただきました。時間に厳しく、盛りだくさんの二日間でしたが研修生たちは、一人ひとりがこの研修で得たものをたっぷり抱えて帰路につきました。

どうぞ、それぞれの保育園であなたらしさが発揮できますように……。

西部支部

月 日 平成二十六年二月十二日～十四日
会 場 静岡県立三ヶ日青年の家
参加者 一〇四名

西部支部では今年度も二泊三日のスケジュールで研修をおこない、一〇〇名を超える研修生が参加しました。

一日目、県保育所連合会岡田副会長、県保育士会下原会長の講義からスタート。保育所としての使命、保育士としての自覚を学びました。午後は二時間以上をかけてオリエンテーション。班内での親睦、結束力を高め、班としてのまとまりができ始めました。そして夜は「絵本で子どもの心と手をつなごう」絵本のおもしろさが改めて伝わったようです。二日目、朝からみっちり講義をおこないます。午前は「社会人の基礎知識」「絵画、

造形を楽しむために」
午後は「楽しいリトミック・歌唱指導」「子どもとあそぼう」と、組織の一員であることの理解、そして小麦粉粘土に触れたり、体を動かしたり感性を磨く実技。そして夜は「現



場からのアドバイス」二日間で深まった絆は、率直な意見・疑問など言いやすい環境を作り、時間いっぱいまで先輩方からたくさんのお話を聞きました。三日目、「社会人として一番大切なこと～人間関係と服務接遇～」一番記憶に残るのではないかと我々の思いから、今回は接遇マナーを最終の講義にしました。二日間の講義を受け、これから保育士になるという自覚が芽生えてからの講義に、研修生の意識も例年とは違ったのではないのでしょうか。社会人として、保育所職員としての今後の活躍に期待したいと思います。

実行委員長 掛川こども園 野中徹

各研修報告

平成二十五年・施設長研修会

期日 平成二十六年一月三〇日(木)
会場 清水テルサ(静岡市東部勤労者福祉センター)

昨年に引き続き、清水テルサにて三〇一名が参加して施設長研修会が開催されました。

講義①は、(株)エイデル研究所・代表取締役社長の新開英二氏をお招きして、「実る子育て悔やむ子育て」子どもが思春期に花開くために」と題してご講演いただきました。講義の中で子どもたちの今を捉え、子育てが難しくなっている時代に何が大切か、発達の視点を通して教示されました。子育てのすすめとして ①人の話を聞くことができる ②人に話をするができる ③人に自分の考えを伝えることができる など生きる力に何が必要か子育てのヒントが心に残りました。

講義②は、保育所連合会の後藤弘明会長による「保育情勢動向」でした。保育の必要性の認定についてと公定価格についての説明をいただきました。

講義③は、(株)アンビシヤス代表取締役、小茂田志郎氏による「人と仕事のマネジメント講座」保育事業のマネジメントを考える」でした。利益追求を目的とするのではなく、子どもと保護者の最善の利益を追求していくことが顧客を創造することだと強調されました。そのために必要なリーダーシップ要件やリーダーにおける五つの約束は自身を見つめなおす機会となりました。

新規採用職員研修会

期日 平成二十六年六月五日(木)
会場 静岡県総合社会福祉会館(シズウェル)

今年度の新規採用職員研修会は、一三一名の参加がありました。

最初の講義は、静岡県保育所連合会の後藤会長による「保育所の使命と役割」でした。まず「子ども子育て関連三法」による新制度についてお話がありました。また、保育園が職員に求めるものは、①質の高い保育、②三つの保障(生きること・発達すること・幸せであること)、③コミュニケーション能力、④保育者自らの主体性、⑤ポジティブな保育、⑥より良い判断のできる座標軸、であるとお話していただきました。

次の講義は、静岡県保育士会の下原会長による「保育者の使命と役割」でした。失敗は自分の糧にして、経験を積み重ねて良い保育士を目指して欲しいこと。プロの保育士になるために、会長ご自身の保育園の卒園児のエピソードも交えてお話していただきました。

午後の講義では、小田原短期大学学長の小沼肇先生より「新人保育者の責任とプライド」責任重大!かわいい子どもたちの人生が「をテーマに講演をしていただきました。子どもたちを育てるためには共感する事が必要であり、さらに保育者自身の感性が求められる事を教えていただきました。午後のグループ討議の後、毎年恒例の手話の唄「手のうた」を全員で歌って終わりました。

青年部研修会

期日 平成二十六年六月四日(水)
会場 静岡音楽堂A O I 講堂

第二回となる青年部研修会(次世代リーダー研修会)は、講師に保育システム研究所代表の吉田正幸氏をお招きしての開催となりました。演題は、「新制度のポイントと公定価格を考える」私立保育園の対応策と今後の課題」。

その不透明さに混乱を余儀なくされた戦後最大の保育制度改革も六月に入り公定価格が提示されるなど、平成二十七年の本格施行に向けて、いよいよカウントダウン開始。これから否が応でも、それぞれの保育園にとっての正しい選択が問われていきます。

七〇名を超える参加者数とその真剣に受講する姿勢は、その未来を明確に予感させます。

吉田氏の明解な説明も手伝って次第に熱を帯びていく研修会。社会構造の変化、施設類型など新たな仕組みの基本構造、地域性を反映した自治体ごとに策定する子ども・子育て事業計画、地方版子ども・子育て会議の役割。それぞれのポイントが示されたことで課題が次々と浮き彫りになった反面、複雑だと思っていたシステムが少し明らかになりました。

保育園と幼保連携型認定こども園。どちらの道を選んでも必ず伴う変化。でも、それらに対する柔軟な思考と行動こそ次世代を担う青年保育者の資質となるのかもしれない。

保育士養成校との 意見交換会

保育現場においては待機児童や特別な支援が必要な児童等の増加に伴い保育士の確保が喫緊の課題となっています。

この様な状況の中で、静岡県保育所連合会では、保育士の確保等について静岡県内の保育士養成校との相互の協力と連携を図るため、今年度も六月二〇日に保育士養成校との意見交換会を開催しました。

県内の保育士養成校十四校から二二名の職員が、また県保育所連合会からは正副会長を主に十一名が参加し意見交換を行いました。

後藤会長からの挨拶の後、県保連事務局から緊急子育て支援事業についての報告があり、平成二十五年十二月現在で、県全体の待機児童数が前年度より五人増加して五一九名となった。県の所管分は九七名と半減した。待機児童ゼロ市町が過去最多の二五市町となった。との説明を受けました。

続いて保育所施設整備について、市町事業によって平成二十四年度には六五〇人、平成二十五年度は三七〇人の定員増となり、平成二十六年度は一、一一五名の定員増予定との説明を受けました。

全体会終了後、Aグループは、中部地区の養成校七校の十一名と県保連役員五名が、B

グループは、東部地区・西部地区を含む養成校七校の十一名と県保連役員六名が参加し会を進めました。

就職状況については、各校ともほとんどの卒業生が、資格を生かして、保育所、幼稚園、認定子ども園、その他の社会福祉施設に就職している。首都圏の株式会社社立の保育所から



の求人が大変に増えている。職員寮等も備えており、地元就職せずにそちらに行ってしまう学生も増えている。学生が自分に合う園を見つけられるような機会を増やす必要がある。学生には、色々な園を訪ねて色々質問をしてほしい。授業の都合で一・二日の自主実習に行くのが精一杯だが、受け入れてもらえるのか不安で連絡し辛いところがある。実習は園にとっても学生にとっても大変だ。実際に、一日の実習でどこまで判るのかと考える園もある。園の考えになってしまいが、短期間であつてもお互いを知る事は出来るのではないか。

園のホームページを見て採用情報を探す学生もいる。静岡県保育所連合会のホームページにも求人情報がある。園側としても情報の更新をしっかりとしない



といけないが、ぜひ学生に利用してほしい。
また、保育士を目指す男子学生は増加しているが、なかなか求人が少ない。結果として、福祉施設への就職を選んで、保育の資格を生かせない職種に配属され、勉強し直している状況もある。株式会社立保育園の求人に応募して県外、首都圏に就職する学生も多い。男性保育士にはどうしてもリーダ的な人材を求めている。高いモチベーションを持つ必要がある。保育士の他にも何か資格を取得するなどのプラスの力が必要で、園としてもキヤリアパスの導入が必要である。

養成校の教育の特色については、それぞれの学校の行っているカリキュラムについて、アドバイザーステムや独自プログラム、学内の子育て支援室を利用した実践や



少人数ゼミなどに加え、子ども・子育て支援新制度の本格実施への対応としての授業内容の検討や、保育士・幼稚園教諭どちらかの免許を持たない者への習得特例への対応等についても説明があった。

就職後、職場内の人間関係により退職する事が多い。本人の資質の問題もあるが、一度退職した後でも、次の就職先につながるような取り組みが出来ればいいと感じている。養成校として既卒者の就職に対して、どこまで保育園にお願いできるか分らなかった。人の移動が出来る業界であってほしいと思う。園としても、就職先として選んでもらえる魅力を持った園作りが必要であり、養成校や学生に対する情報の開示も重要であるなど、養成校、保育園それぞれの現状と課題について活発な意見交換が行われ、大変有意義な会議となりました。

今後も、養成校との連携と協力をより一層進める事により、養成校と保育現場の意識の統一を図り、高い資質を備えた保育士の育成と確保に結び付いていくものと思われまます。

意見交換会出席者

学 校 名	出 席 者
常葉大学（富士キャンパス）	涌田恵美子講師
常葉大学短期大学部	鈴木久美子主任、石川富美江就職指導員
静岡英和学院大学	永田恵実子准教授、鈴木雅人課員
東海大学短期大学部	杉山静子准教授、金子史世副主事
静岡県立大学短期大学部	漁田俊子教授・附属図書館長
静岡大学教育学部	石原剛志教授、
静岡福祉医療専門学校	村松美江子非常勤講師、山本佳郁代教員、市川知子教員
東海福祉専門学校	平野久美子教員、西田奈緒美教員
浜松学院大学	新井庸子講師、天野弘美グループ長
浜松学院大学短期大学部	坂田温志准教授
聖隷クリストファー大学	鈴木まき子助教（就職委員）、藤田正人センター長
常葉大学（浜松キャンパス）	海野展由教授（学科長）
浜松情報専門学校	牧野律子教員
沼津情報・ビジネス専門学校	宮城嶋進一係長

予算対策委員会

委員長 緑ヶ丘保育園 内藤栄一

現在五〇八園で構成する保育所連合会として、質の高い保育の提供と、子ども達の安全と健やかな成長を保障し、心豊かな次世代を育成していくという使命達成のため、保育所がより一層充実した保育を展開できるよう、次の八項目を県に要望致しました。

- ①平成二十七年第五六回関東ブロック保育研究大会の負担金について
- ②食育の充実と推進について
- ③事務職員の常勤化について
- ④保育士等処遇改善臨時特例事業の恒久化について
- ⑤乳幼児保育事業の充実について
- ⑥産休等代替職員雇上事業の充実について
- ⑦0歳児入所サポート事業の継続について
- ⑧東海地震等大災害に対する安心・安全な施設の充実について

加えて、全国保育協議会、日本保育協会、全国私立保育園連盟の国に対する予算対策活動に参画してまいります。

研修委員会

委員長 桜木保育園 野中 徹

本年度上期に開催した所長研修会、新規採用職員研修会及び保育士養成校との意見交換会も盛会のうちに終了致しました。皆様のご協力に感謝いたします。また、ほいく静岡の各研修報告のページをご覧ください。

当委員会では、新制度のスタートを前に、様々な角度より見つめられるよう、幅広い分野から講師を招聘し、充実した研修会の企画・運営に努めます。下期の研修会は次の通りです。

○民間園長研修会

平成二十六年十月三十日～三十一日

オークラアクトシティ浜松ホテル

○育児相談研修会

①東部地区

平成二十六年十一月五日(水)

沼津市民文化センター

②西部地区

平成二十六年十一月十九日(水)

浜松市勤労会館Uホール

③中部地区

平成二十六年十一月二十六日(水)

山口駅前ビル

○施設長研修会

平成二十七年一月二十二日(木)

清水テルサ

○新規採用予定職員研修会

平成二十七年二月中旬から下旬

青年部会

委員長 なごみ保育園 志賀口大輔

正式な部会として発足し一年。研修活動、調査研究活動、同世代の情報交換・交流活動、県保連事業への応援活動、保育三団体等全国組織への参加を主な活動目的として取り組んできました。具体的内容は以下の通りです。

○第一回 委員会(平成二十五年五月十四日)

県総合福祉会館

○青年部会設立総会及び研修会

(平成二十五年六月十四日) 市民文化会館

演題「子ども・子育て支援新制度の動向」

講師 淑徳大学総合福祉学部教授

柏女 霊峰氏

【支部活動】

○中部支部(平成二十五年五月二十四日)

静岡市職員会館

テーマ「先輩園長先生からのメッセージ」

講師 神愛保育園元園長 新沢 誠治氏

○東部支部(平成二十六年一月二十五日)

三島市社会福祉会館

テーマ「乳幼児期に本当に必要とされる教育とは」

育とは」

講師 育愛学園 四季の森幼稚園園長

若月 芳浩氏

○西部支部(平成二十六年二月十八日)

内容 公開保育及び意見交換会

公開園 入野保育園、桜木保育園、豊田みなみ保育園、なごみ保育園、曳馬

保育園

各支部だより

東部支部

支部長 緑ヶ丘保育園 内藤栄一

一、総会及び施設長研修会

期日 平成二十六年五月十五日(木)

場所 沼津市民文化センター 大会議室

講師 静岡便教会会長

(富士市立高等学校教諭) 柿島由和氏

内容 「便器磨きは心磨き」

二、中堅保育者研修会

期日 平成二十六年八月二十七日(木)

二十八日(木)

場所 三島市箱根の里少年自然の家

三、保育の日研修会

期日 平成二十六年十月四日(土)

場所 伊東市観光会館

講師 未定

四、民間部会県外施設視察研修

期日 未定

視察先 未定

五、行政部会研修

担当 清水町

六、青年部会研修

期日 未定

場所 未定

七、新規採用予定職員研修会

期日 未定

場所 三島市箱根の里少年自然の家

八、家庭における読み聞かせ活動の普及

中部支部

支部長 ゆりかご保育園 神野博行

一、総会及び施設長研修会

期日 平成二十六年五月二十九日(木)

場所 静岡県総合社会福祉会館

講師 プランニング開代表

アトリエ自遊楽校主宰

演題 「子どもの可能性を切り開く施設長の役割」

新田新一郎氏

二、保育所職員研修会

期日 平成二十六年十月二十四日(金)

場所 静岡市立日本平動物園

演題 「五感を磨き、高い感性の保育士を目指して」

三、中堅保育士研修会

期日 平成二十七年一月二十日(火)

場所 静岡県総合社会福祉会館

講師 あおぞらキンダーガーデン

園長 岡村由紀子氏

演題 「気になる子」と言わない保育

四、新規採用予定職員研修会

期日 平成二十七年二月二十四日(二十五日)

場所 静岡県立焼津青少年の家

五、各地区事業

各地区ごとの事業計画に基づいて実施

八、家庭における読み聞かせ活動の普及

各地区ごとの事業計画に基づいて実施

西部支部

支部長 ルンビニ保育園 岡田泰稔

一、総会及び施設長研修会

期日 平成二十六年五月十三日(火)

場所 アクト音楽工房ホール

パネリスト 西部支部内各市町主管課担当者

テーマ 「子ども・子育て支援新制度に向けて」

二、男性職員交流研修会

期日 平成二十六年八月一日(金)

場所 クリエート浜松

講師 掛川こども園保育園部園長 野中徹氏

演題 「男性保育士に求められているものとは」

三、施設長研修会

期日 平成二十六年九月十六日(火)

場所 アクト音楽工房ホール

講師 保育研究所所長 村山祐一氏

演題 「いよいよ始まる新制度にむけて」

新制度のメリットとデメリット

四、小児医療研修会

期日 平成二十六年十月二十二日(水)

場所 アクト音楽工房ホール

講師 未定

演題 「メディアと子どもの健康な育ち」

五、新規採用予定職員研修会

期日 平成二十六年二月十八日(二十日)

場所 静岡県立三ヶ日青年の家

八、家庭における読み聞かせ活動の普及

各地区ごとの事業計画に基づいて実施

ワープロ感覚で日記の
更新ができるシステム

手軽に簡単更新

PassTell Blog

パステルブログ

初期費用
(税別)

30万円～

月額
(税別)

6千円～

らくらく伝わる！保護者につながる！

ホームページ制作

- ✓ 保育理念と活動を具体的に伝える **コンテンツ** ですか？
- ✓ 園や先生たちのイメージにつながる **デザイン** ですか？
- ✓ 保護者視点のわかりやすい **導線** ですか？
- ✓ 忙しい先生たちでも **更新しやすいシステム** ですか？
- ✓ **アクセス解析** の数値で保護者の反応を把握していますか？



問合:054-626-8888 パステルIT新聞事務局 <http://blog.passtell.jp/>

さまざまな危険からお子さまをお守りする



『園児総合保障共済制度』

キッズカード (こども総合保険)

AIU損害保険株式会社

日々大きく成長されるお子さまたちの行動には
予測できないことも多く、何かとお心づかいの
ことと存じます。いつ、どこで何が起こるのか
予想もつかない事故の、確かな“まもり”とし
て本制度をお届けいたしております。

静岡支店 〒422-8067 静岡市駿河区南町14-1
水の森ビル5階
☎: 054-284-2781
浜松支店 〒430-0935 浜松市中区伝馬町312-32
浜松シティビル5階
☎: 053-454-0321
沼津支店 〒410-0801 沼津市大手町3-8-25 7階
☎: 055-963-8081

今、新たな感動を姿(かたち)にしたい

…幼な子とともに



株式会社 ジャクエツ

浜松店：

〒432-8021 浜松市中区佐鳴台1丁目13-5

TEL 053(453)0535

FAX 053(453)0777

静岡店：

〒422-8064 静岡市駿河区新川1-16-13

TEL 054(281)2271

FAX 054(281)2026

沼津店：

〒410-0822 沼津市下香貫
字下障子3141-2

TEL 055(932)3121

FAX 055(932)3122



**保育士
登録数 20,000名**

アスカグループは保育士さんの人材紹介・派遣会社です

保育士求人ポータルサイト

保育情報 どっとこむ

くわしくはwebで [保育情報どっとこむ](#) 

保育士の人材紹介・派遣

asuka アスカグループ

 0120-777-277



ココロ花咲く、ステキな旅を。

お客様満足度100%+αを追求するサービスマインド。

お客様の立場になる「想像力」、プラスアルファを創る「創造力」。

半世紀を超える実績と豊富な情報力を駆使して

高品質・高付加価値の商品とサービスを提供するトップツアー株式会社。

私たちは旅を通じて新しい出会いと感動を創出する

〔旅行インテリジェンス企業〕です。

出逢い、発見、そして感動。

トップツアー株式会社 静岡支店

観光庁長官登録旅行業第38号 © JATA正会員・ボンド保証会員

〒420-0859 静岡市葵区栄町3-1 あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル7F

TEL:054-255-1919 FAX:054-252-9509 <http://www.toptour.co.jp>

こどもの笑顔がみたいから

**安心・安全な
保育園用おやつ**



**全国の保育園から
お使い頂いています**



株式会社サンワールド

＜静岡支店＞〒421-0121 静岡市駿河区広野2-10-17

TEL054-256-6332 <http://www.sunworld->

保育所事務処理の“作業効率化・正確化”を応援します！

社会福祉法人支援システム「創・ゆとり」シリーズ

操作はとっても簡単！

財務会計2014

「新会計基準」へまだ移行されていないお客様は、弊社まで是非お問合せ下さい。

給与計算2014

「給与実務カレンダー」「職員一覧入力画面」等、便利な機能を追加して生まれ変わった給与システムです！

給食管理システム

基本的な食品成分表はセット済み。栄養目標値に対する達成率や発注・仕入処理も可能なシステムです！



ISO9001・ISO27001認証 ITインテグレーター

株式会社 ユニテック

〒420-0911 静岡県葵区瀬名1丁目18-33 ユニテックビル
TEL:054-264-1111 FAX:054-264-7771

ホームページ www.unitec.jp メールアドレス eigyo@unitec.jp

緊急連絡網の準備はできていますか？携帯電話・パソコンへ斉メール配信「携帯電話チェックインシステム」

緊急時、行事開催、一般連絡等の情報伝達が飛躍的に改善されます！
受信者のメール確認状況も把握できます！

園の紹介、情報開示は簡単便利なホームページで！「らくらく更新web」

苦情解決、事業報告、行事予定、写真(アルバム)等の
情報公開、情報更新が園のパソコンで簡単にできます！



株式会社 データサービスセンター

〒411-0912 駿東郡清水町卸団地63-2(沼津卸商社センター内)

Tel:055-972-7717 <http://www.dataeast.co.jp>

Fax:055-972-0969 E-mail:h-sanada@dataeast.co.jp

編集後記

三島市 白道保育園 土山雅之
今後新制度で大きく変化する保育界の動向を少しでも伝えることができたと思います。

沼津市 いずみ保育園 十八公浄滋
会議に参加できず、皆様にご迷惑をおかけいたしました。次回はしっかりと仕事ができるようにいたします。

沼津市 原町保育園 鶴谷由美子
広報も二年目になり、少し慣れてきて、いいお昼ご飯も楽しめました。

静岡市 日影保育園 浅井哲朗
今回も楽しく仕事させていただきました。次回も……？

静岡市 相生保育園 吉野恵人
今年も無事に夏号の発刊となりました。毎回、苦勞しますが少しでも良い内容を目指します。

静岡市 麻機保育園 鈴木克明
あわただしい中での編集はミスしがちなので慎重にチェックしていますが……

静岡市 ゆりかご保育園 神野博行
心をこめて作りしたので多くの方には是非読んでいただきたいと思っています。

島田市 くりのみ保育園 栗原亜佐子
皆さんの足手まといにならないように……がんばります。よろしく願います。

袋井市 ルンビニ保育園 岡田泰稔
来年はいよいよ関係プロ。今から期待と不安でいっぱいです。どうなる事やら……

浜松市 入野保育園 中村勝彦
あつと言う間に二年目、今年度も皆さんの迷惑にならないように頑張ります。

浜松市 はあもにい保育園 東山和樹
今年で広報員六年目です。来年交代していただける方、募集しています。

すべての人が
子どもと子育てに
関わりを持つ
社会の実現を
めざして……
静岡でお待ちしております。

写真提供／静岡県観光協会

第56回

関東ブロック保育研究大会

平成27年 **7/2** 木 ～ **3** 金

グランシップ大ホール・海&会議室



「ほいく静岡」原稿写真募集中

保育実践・研究の紹介や育児相談・講座の紹介など奮ってご寄稿下さい。
ホームページ： www.hoiku-shizuoka.org



投稿先 静岡県保育所連合会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番70号
TEL / FAX : 054-251-8873